



第 22 回
大阪府公共建築設計コンクール

あすなる夢建築



主 催

大 阪 府 (社)大阪府建築士会 大阪府住宅供給公社

後 援

大阪府教育委員会 (社)大阪府専修学校各種学校連合会

協 賛

(社) 日本建築協会	(社) 大阪府建築士事務所協会
(社) 日本建築家協会近畿支部	(一財)大阪建築防災センター
(一財)日本建築総合試験所	(一社)公共建築協会
(社) 大阪建築設備設計事務所協会	(社) 日本建築積算協会関西支部
(財) 建築技術教育普及センター近畿支部	

「地域参加への第一歩！」
大阪府宮松原一津屋住宅集会所

コンクール概要



このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することで、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、府内の高校生や専修学校生等からアイデアを公募し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

【テーマ】

「地域参加への第一歩！」 - 大阪府宮松原一津屋住宅集会所 -

【主な設計条件】

所在地：松原市 一津屋 3 丁目
計画地面積：約 340 m²
述べ面積：150 m²～170 m²
構造・規模：鉄筋コンクリート造 平屋建て 1 棟

【作品受付期間】

平成 25 年 1 月 7 日（月）～ 1 月 11 日（金）

【応募状況】

応募校数：16 校
応募作品数：221 点（うち 第 1 部 52 点、第 2 部 169 点）
応募者数：247 人（うち 第 1 部 56 人、第 2 部 191 人）

第 1 部

大阪市立工芸高等学校
大阪市立都島工業高等学校
大阪府立今宮工科高等学校
大阪府立西野田工科高等学校
大阪府立東住吉総合高等学校
大阪府立布施工科高等学校
堺市立堺高等学校

第 2 部

大阪建設専門学校
大阪工業技術専門学校
大阪市立デザイン教育研究所
大阪府立芦原高等職業技術専門学校
大阪府立大学工業高等専門学校
修成建設専門学校
創造社デザイン専門学校
中央工学校 O S A K A
日本理工情報専門学校

【応募資格】

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校（工科高等学校）・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は 3 名以下のグループ。

【募集区分】

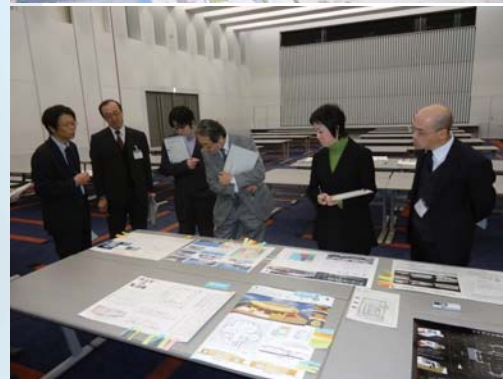
第 1 部：工業高等学校（工科高等学校）等に在籍する生徒
第 2 部：短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生

【入賞作品と賞】

グランプリ 1 点 準グランプリ 1 点 優秀作品賞 2 点 佳作 4 点 奨励賞 2 点
入賞作品は、上記 10 点を選出し、それぞれの入賞者に賞状を授与。ただし、第 1 部と第 2 部からそれぞれ 2 点以上の賞作品を選出するものとした。

【表彰式及びプレゼンテーション】

日時：平成 25 年 3 月 25 日（月）午後 1 時～
場所：大阪府庁本館 5 階 正庁の間
表彰式、受賞者 10 名によるプレゼンテーション及び正庁の間見学会



審査委員

【審査委員長】

大坪 明

(武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科教授)

【審査委員】

末包 伸吾

(関西大学環境都市工学部建築学科教授)

加我 宏之

(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授)

井上 久実

(井上久実設計室代表)

前田 栄治

(大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅整備課長)

平田 真

(大阪府住宅まちづくり部公共建築室長)

総 評

審査委員長 大坪 明

この大阪府の公共建築設計コンクールは、府内の工業高校や専門学校等で建築を勉強している若者の皆様に、設計したものが実現するチャンスを与える実践教育の場として開催されている。全国でも貴重な取り組みで、各方面のご協力を得ながら実施されており、今回で 22 回目を迎える。今回は 247 名から 221 点の応募があり、昨年度より 25% ほど増えたことを関係者一同が喜んでいるところである。

今回は集合住宅団地の中の集会所というテーマが与えられた。応募作品を見ていると、評価の視点を明確にしたことにより、極めて現実的な取り組みがなされていることが伺える。また、先生方のご指導のよろしきを得て、応募者各位が与えられたテーマに真摯に取り組んだ姿勢が伺われ、極めて好感を持って個々の作品を拝見した。

応募作品は、どれも優れた点があり、なかなか甲乙をつけ難かったが、中でも建物が使われる状況や立地の特性をより深く推し量った結果を計画案に落とし込んだ作品が受賞作となっている。更に、設定された条件とは多少異なるが、設計者の積極的な提案がより快適で新しい使い方を誘導するであろうと認められる作品も受賞作として取り上げた。これは、単に提示条件を鵜呑みにするだけでなく、独自の新たな提案でより快適な環境を提供するということが、建築設計本来の役割でもあるからだ。

ただ残念なことは、評価の視点を明確にしたからだろうか、それらから逸脱するかもしれないけれど、デザインとしては挑戦的で優れていると言えるような作品が少し影を潜めた点である。「奨励賞」に狙いを定めた挑戦的な作品も期待しているので、ふるって挑戦して下さいを願っている。

山崎智紀 作品（グランプリ）

土間としての利用が想定される、エントランス・ホール兼ふれあいリビング。この土間を中心に、集会所は内部の諸室を連結し、同時に外部の 3 方向に開く構成をなしている。集会所の開閉が、その利用だけでなく、周辺環境へと与える影響は大きい。外部空間への配慮も行き届いた、この土間のふれあいリビングは、数ある集会所に新しい使い方、「開き方」を導く可能性があるものとして高く評価された。

平井耀介 作品（準グランプリ）

団地集会所は、団地居住者や周囲の町の人々のコミュニティの核となるものである。集会所が本質的に求められる場としての「つながりと記憶」への誘い、本案は、そうした集会所の本質に立ち向かった作品である。本作品では、多様で快適な外部空間の計画は周辺環境と連続し、緻密な平面計画と相まって、人々が集う「つながりと記憶」の場となることが、卓抜した図面表現を持って示されている。

粟野瑞基 作品（優秀作品賞）

北側の広場利用、南側からのアプローチ、東側への集会所利用の様子の滲み出しと敷地周辺での利用行動に則した機能配置と東立面を中心に採用されたガラス窓による壁面構成は明快である。集会室の分割利用時に配慮した湯沸室、収納スペースの分割配置もよく考えられている。湯沸室上部の勾配屋根端部の雨水処理やガラス面のコストの点では課題も見受けられる。

宿野綺秀 作品（優秀作品賞）

円形の象徴的な形。この形は、近くの古墳の円形や団地の中心性から導きだされている。各室は円周の中にきれいに収まっている。円弧と室の隙間はテラスとされ、各室からのアプローチも明快に出来ていてきれいなプランである。集会室は北側に面しているが屋根からボリュームを突き出し、トップサイドからの光の取り入れ方も優れている。円の中心にある中庭の上からの光が、ゆるやかに室内に広がるのも想像出来る。一つ残念なのは、集会室からの使い勝手を重視したのだろうか、集会室の倉庫が広場との関係を遮断していることである。

藤野巧巳 作品（佳作）

光溢れる内部空間を創出したことにより、集会所はそのアクティビティを、街を歩き交う人々に表し人々のコミュニティ形成の核となっていく。コンパクトな平面計画とともに断面計画を工夫した丁寧な計画がなされた作品である。

田中申明 作品（佳作）

設計要件に忠実に対応すると共に明晰な平面構成がとられた本作品は、その構成の明確さを外観にも表現している。集会所での様々なシーンでの利用への配慮もなされ、プレゼンテーションの密度も高い、好感の持てる作品である。

榎本貴之 作品（佳作）

北側の広場と一体となった集会室及び湯沸室の配置、開口部の提案、天窓による北側集会室への採光処理の提案は明快である。東側からの視線を考慮すると東側立面の意匠の提案には課題が残されている。

松本一生 作品（佳作）

北と東にオープンスペースをとり、広場とのつながりと街とのつながりを重視した案。とりわけ、東側のパーゴラ風のテラスが象徴的である。ここに、外部から人が集まり、交流が生まれる。集会室のサッシを開くと、内と外が繋がる。色々な使い方を想定して広さやデザインを決めるともっと現実味が出てくると思われる。

末永かつら 作品（奨励賞）

あおぞらリビングを中心とした集会室、湯沸室、和室の配置と集会所の多様な日常利用と広場での非日常利用も考慮され、親しみやすい提案である。さらに、雨天や冬季等、天候を考慮した工夫も求められる。

菊川勇士・谷川勇弥 作品（奨励賞）

シャープな外観が特徴的。南側の高窓から取り入れた光を北と東にスルーさせ、光に導かれて人が引込まれるというアイデアを形にしている。北側には広場でくつろぐ人や子供が居て、東側には街を歩く人や団地がある。北と東から出てくる光に異なった表情を持たせ、人々が立ち寄りたくなるような強いメッセージを発しているのはよく考えられている。

2-336

土間ん中の賑わい

設計趣旨
古来より人々を迎え入れる土間は、部屋のようにも、庭のようにも、それは中間的なスペースとして、さまざまな活動が行われ、多彩な表情に溢れていました。時代の流れのなかで失われた、この日本住居の伝統的な空間を、現代の集会所で再現しようというのがこの作品のコンセプトです。

直行するふたつの軸線により展開されるふれあいリビングは、通り抜けの空間として人々を招き入れ、動線の起点となっていることで、活発な交流を誘発するように考えました。多目的利用を想定した集会室は、独立したシンプルな形態として、フレキシブルに対応できるようになっています。全体をシンプルな構成とすることで、開放的で自由度の高いふれあいの場となります。

サークル活動の場として
立ち寄る場として
地域イベントスペースとして
集会所として
集いの会場として

全休像

2-320

ツナガリと記憶の集会所

湯沸室は学校の家庭科室にあるような調理台を置くことで、昔、学校の授業でみんなでワクワクしながら料理をした思い出を感じながら調理をしてもらえるように計画しました。湯沸室と集会室のつながりは、集会室を2つに分けた時にでも、両方から行き来できるようになっています。

和室は座った時に北側にある広場が見えるように床から1300mmの高さの窓を設けることで、子ども達が楽しく遊んでいる姿を見ることができるようになっています。

2-117

みんなの集会场

「みんなの集会场」を設計するにあたり、人の動線や使いやすさを重視した。歩道から直接入場する事の可能な様に、ウッドデッキを設けたり、また、自転車が来やすい様に数カ所に駐輪スペースを設けた。

暗いイメージになりがちな集会場の考えを変えるために、カフェの様なアットホームな外観となる様心がけた。

これから起こりうるであろう、様々な事に対応可能な様な設計を心がけた。

2-317

集-マル 大阪府宮原一津屋住宅集会所

敷地は古墳群に近接した歴史的な時間を感じさせる場所であることと、実際の集会所として周辺の建物をまとめる機能から、空間と時間をまとめる形としてマル(円)が導かれた。さらに住人の手によってみんなでつくられる集会所となることとエコロジカルな建物として長く維持されることを願い屋根にはコスモスの種などを植えることができるように土を入れ、外壁は土を混ぜたモルタルを吹付け、壁の一部を団地のみんなで作る土壁の場所を設けた。また、どの方向からも入ることができ、どの居室からも外へ出られるようにデッキを周囲に設け、集まりやすい集会所を目指した。集会室はハイサイドライトを設け、採光や通風の良い建物としている。四季によって色々な花や草が咲き、見ても楽しく飽きのこない集会所となることを目指した。

準グランプリ 平井 耀介
大阪建設専門学校 2年
ツナガリと記憶の集会所

優秀作品賞 栗野 瑞基
大阪市立都島工業高等学校 3年
みんなの集会场

優秀作品賞 宿野 綺秀
大阪建設専門学校 2年
集-マル
-大阪府宮原一津屋住宅集会所-

グランプリ
山崎 智紀
日本理工情報専門学校 2年
土間ん中の賑わい

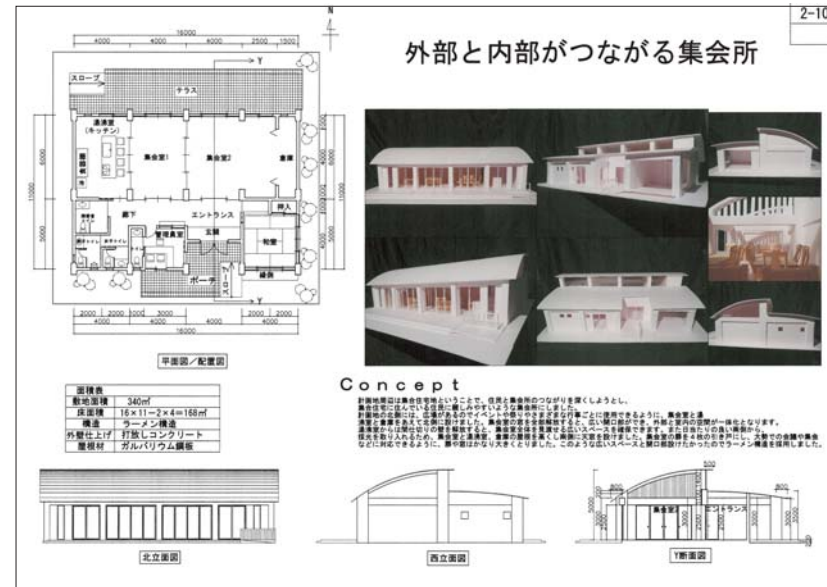
古来より人々を迎え入れる土間は、部屋のようにも、庭のようにも、それは中間的なスペースとして、さまざまな活動が行われ、多彩な表情に溢れていました。時代の流れのなかで失われた、この日本住居の伝統的な空間を、現代の集会所で再現しようというのがこの作品のコンセプトです。

直行するふたつの軸線により展開されるふれあいリビングは、通り抜けの空間として人々を招き入れ、動線の起点となっていることで、活発な交流を誘発するように考えました。多目的利用を想定した集会室は、独立したシンプルな形態として、フレキシブルに対応できるようになっています。全体をシンプルな構成とすることで、開放的で自由度の高いふれあいの場となります。



佳作 藤野 巧巳
大阪市立都島工業高等学校 2年
Sun Sun ★ community

誰もが気軽に足を運べる明るい集会所にしました。すべてのトイレを建物の中央に集めてそれをコアとし、その周りを主要な室や廊下で囲み360°歩いて回れるようにしました。そして、建物の外壁はほとんどガラス張りにして建物の外からでもなんとなく中の様子がわかるようになっていて建物の周りを軽く歩くだけでも楽しくなってくるような外観を目指しました。ふれあいリビングには中庭を設け、緑を感じることでホッとしたりとときを過ごすことができます。



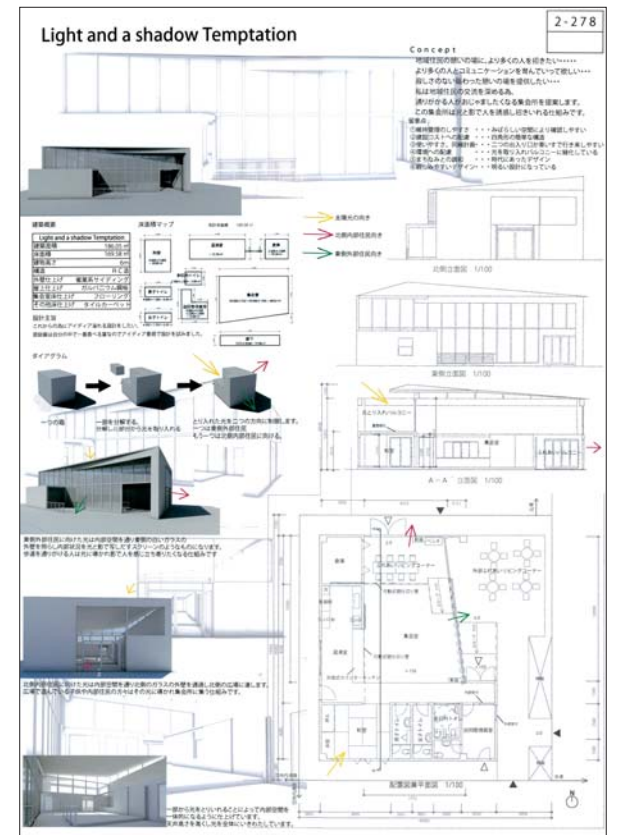
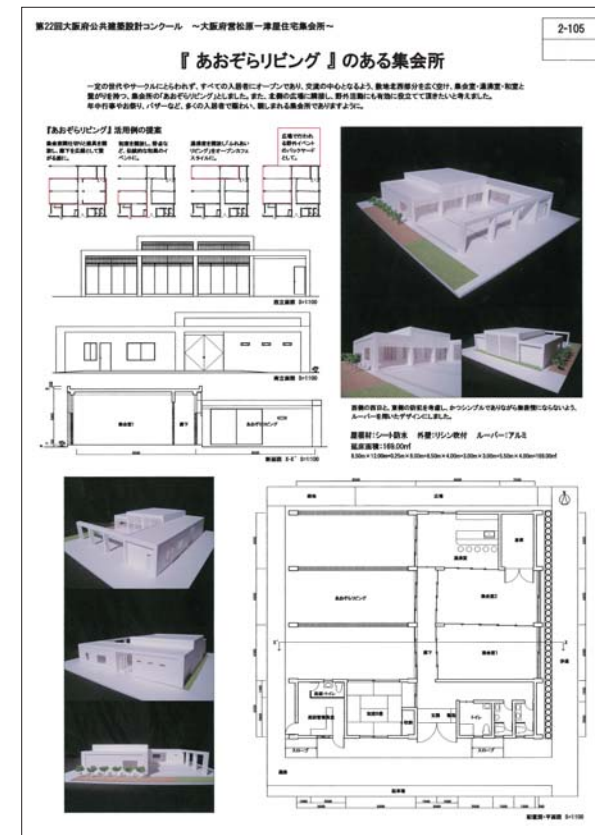
佳作 榎本 貴之
修成建設専門学校 1年
外部と内部がつながる集会所

計画地周辺は集合住宅地ということで、住民と集会所のつながりを深くしようと、集合住宅に住んでいる住民に親しみやすいような集会所にしました。計画地の北側には、広場があるのでイベントや祭りやさまざまな行事ごとに使用できるように、集会室と湯沸室と倉庫をあえて北側に設けました。集会室の窓を全部解放すると、広い開口部ができ、外部と室内の空間が一体化となります。湯沸室からは間仕切りの壁を解放すると、集会室全体を見渡せる広いスペースを確保できます。また、日当たりの良い南側から、採光を取り入れるため、集会室と湯沸室、倉庫の屋根を高くし南側に天窗を設けました。集会室の扉を4枚の引き戸にし、大勢での会議や集会などに対応できるように、扉や窓はかなり大きくとりました。このような広いスペースと開口部を設けたかったのでラーメン構造を採用しました。



佳作 田中 伸明
大阪府立西野田工科高等学校 3年
ふれあいひろがれ
大阪府営松原一津屋住宅集会所

日々の井戸端会議の語り合いの場として、趣味や同好の人たちが集まりの、切磋琢磨する場として、団地住民だけでなく近隣地域の人々が集い、意識を共有する場として、それぞれのシチュエーションに応じて、この集会所の使い方を変化させられるように考えました。



佳作 松本 一生
大阪府立芦原高等職業技術専門学校
Promenade ～やすらぎの散歩道～

南北に大きく開かれた集会所は隣接する広場と一体となり、さまざまな用途に対応します。集会室の外形は建設コストやメンテナンスを考慮しシンプルなデザインにしました。内部は動線ができるだけコンパクトになるようにし、そして各室の独立使用も可能となるように間仕切りや出入り口を配置しました。また省エネの為ホールは天窗で採光を行い、集会室と湯沸室にはハイサイドライトを設置し採光と換気を行います。建物北側のオープンスペースは敷地境界線から集会所の床レベルまで緩やかなスロープで舗装されています。東西をつなぐ通路としての役割他、朝市などの小規模なイベント利用も想定しています。車両進入に関しては搬入出や冠婚葬祭に使用する車両のみ可能とします。建物東側はパーゴラにより緩やかに区切られ、集会室の一部としてアウトドアリビング的な使い方もできます。一部はガーデニングスペースになっており北側から集会所内部を通らずに花や緑を楽しみながらふれあいリビングを来訪することができます。

奨励賞 末永 かつら
修成建設専門学校 1年
『あおぞらリビング』のある集会所

一定の世代やサークルにとらわれず、すべての入居者にオープンであり、交流の中心となるよう、敷地北西部分を広く空け、集会室・湯沸室・和室と繋がりを持つ、集会所の「あおぞらリビング」としました。また、北側の広場に隣接し、野外活動にも有効に役立てて頂きたいと考えました。年中行事やお祭り、バザーなど、多くの入居者で賑わい、親しまれる集会所でありますように。

奨励賞 菊川 勇士・谷川 勇弥
中央工学校 OSAKA 1年
Light and a shadow Temptation

地域住民の憩いの場に、より多くの人を招きたい...より多くの人とコミュニケーションを育てて欲しい...寂しさのない賑わった憩いの場を提供したい...私は地域住民の交流を深める為、通りがかる人がおじゃましたくなる集会所を提案します。この集会所は光と影で人を誘惑し招き入れる仕組みです。